

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し実践している。</li> <li>・常に職員との話し合いや地域との連携を図っている。</li> <li>・地域との考え方も統一を図っている。</li> </ul>	<p>会議室や各フロアに、福祉と医療の関わりを重視しつつ家庭的で尊厳ある生活環境の中、安らぎと喜びの場として利用者及び家族の幸せを追求するという主旨の理念を掲示し来訪者等に解るようにしている。また、利用開始時、理念と取り組み方針について利用者や家族に説明をしている。職員は2ヶ月に1回行われる職員会議でお互いに理念を確認し、介護方針にある「笑顔で一日過ごし、笑顔で明るい挨拶をする」ことに留意し業務に取り組んでいる。職員に理念や方針にそぐわない言動等が見られた場合には管理者、リーダーが利用者の立場に立ってどうなのかを個別に指導し正しい方向に導いている。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の生活レベルが下がり地域に出向く機会が減っているが、地域の保育園児童、小学生、中学生との交流を増やしている。</li> <li>・ボランティアの方々との交流も月1～2回ほど図っている。</li> </ul>	<p>自治会に加入し協力費を納め区の一員として活動している。一軒の家と同じように回覧板も回ってくるので自治会で行われる行事を把握し、参加出来るものについては出向いている。新型コロナウイルス禍の自粛で難しくなっているが、通常であればフラダンス、ギター弾き語りなど、各種ボランティアによる行事について手作りの案内チラシを作成し近隣にポスティングしている。同じく新型コロナウイルス禍の自粛で難しくなっているが、通常、傾聴や紙芝居などのボランティアも定期的に来訪しており利用者も楽しみにしている。通常であれば、地域の文化祭に各ユニットの利用者の作品を出品し、会場に出掛け楽しんでる方もいる。更に、同じく通常であれば、地区にある保育園の園児も定期的に来訪しており、歌、遊戯などの発表、絵を描いたりし、また、園の運動会などにも招待されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人会の方々が年に1回認知症グループホームの説明会を決定している。</li> <li>・中学生の職場体験の受け入れ</li> <li>・公民館の行事等の参加、作品展示</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在2か月に1回開催し、検討事項や勘案事項及び経過報告をしている。</li> <li>・問題事項が発生した場合は、すぐにカンファレンスを行い検討してより良い施設に結び付けている。</li> </ul>	<p>2ヶ月に1回(偶数月)、利用者代表、家族代表、区長、民生委員、市担当部署や地域包括支援センターの職員などが出席し開催している。ヒヤリハットや事故の報告、行事予定、区長からの連絡事項、意見交換等を行い、運営に役立っている。また、議事録が職員に回覧され、内容を共有し、支援に活かしている。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の担当者と運営推進会議で施設の運営状況、利用者様の様子等伝え連携を図っている。</li> <li>・アドバイス等を参考にして運営に役立っている。</li> </ul>	<p>介護認定の更新時には家族に代わり申請することもあり、市への他の提出書類作成時には市高齢者活躍支援課に相談している。介護認定の更新調査は市の調査員がホームに来訪し、家族の同席を基本としつつ職員から現況を正しく伝えている。市からの敬老の日のお祝いについては利用者の節目の年等を該当部署に連絡し記念品を頂いている。市主催の介護施設・事業所向けの研修会には積極的に参加している。</p>	

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今現在、身体拘束は一切やっていない。</li> <li>・問題発生時は職員全員と検討して問題解決するまで色々とし、事故が無いようご利用者様を不安や混乱等の要因を取り除く様になっている。</li> </ul>	<p>「身体拘束廃止の対象となる具体的な行為」の揭示を各フロアに行い、職員全員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。当ホームでは、身体拘束のないケアについての勉強会を少なくとも年2回以上行うことで意識を高め、きめ細かな見守りでの支援が当たり前という認識が根付き、拘束のないケアに繋がっている。万が一拘束の必要性がありそうな場合にはまず支援の内容を変え代替措置を取り、また、経過を記録し、きめ細かく見回りを行うことなどで拘束のないケアに取り組んでいる。転倒によるリスク回避のため、家族と相談の上、やむを得ずセンサー使用の方が数名いるが、できるだけそれに頼らないように努め、解除に向けた検討会も開いている。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティング、カンファレンスを随時実施し虐待防止の心構えを指導している。</li> <li>・入浴時、普段の対応時の変化等観察している。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修の参加、勉強会を開き機会あるごとに理解を深めて活用出来るように支援している。</li> <li>・現在1名成年後見制度のご利用者様がいる。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に、契約書の内容、重要事項の説明を丁寧に行っている。</li> <li>・随時ご利用者様が不安で分からないときは説明、納得するまでお付き合いしています。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族の皆様と常にコミュニケーションを取り、意見等も聞ける雰囲気作り、予防、苦情等の箱を設置して運営に反映させている。</li> </ul>	<p>自ら意見・要望を伝えられる利用者が多い。現在、コロナ禍で家族等の面会は自粛傾向にありテレビ電話などで家族と話す利用者がいる。通常であれば家族の来訪は週1回～月1回ほどあり、遠方の方もお盆、正月と年数回ではあるが全家族の来訪があり、来訪しやすい環境作り力を入れている。また、通常であれば家族会は年1回、8月末の土曜日に納涼祭を兼ねて行い、スタッフ手作りの食事とビンゴゲームなどで楽しいひと時を過ごしている。また、毎月発行されるお便り「かぐらばしだより」に加え、各利用者の居室担当職員による利用者の様子を書いたメッセージを添え、ホームの様子と合わせお知らせしている。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者は随時、職員と意見要望などを取り入れ良いと思う事は、どんどん取り入れ反映させている。</li> </ul>	<p>2ヶ月1回開催される全体会議で運営全般・研修の報告、連絡、意見交換等を行い、終了後開かれる各フロア会議では利用者個々のケアについて話し合い、希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。人事考課制度があり考課シートを用い、今年度見直しをかけて絞り込んだ評価内容について自己評価を行い、リーダーや管理者による評価等も行い、個人面談での意見や提案等を運営に活かしている。今年度、管理者が変わったこともあり、職員一人ひとりの面談にも十分時間を割き、働きやすい職場環境を整えようとしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修、資格取得に向けた支援</li> <li>・職員の体調管理、職員が抱えている悩み等相談に乗り、心地良く仕事に取り組めるようにしている。</li> </ul>		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修等、極力多く参加していただき外部の方との交流を図るようにしている。 ・研修報告は2ヶ月に1回の勉強会で発表してもらい自分の気づき等を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修など自分から行きたい研修は積極的に参加させ他で働いている人達との交流を図り、刺激を受け仕事への意欲を深めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・センター方式による基本情報や生活歴の記録等を家族から提出していただき把握している。本人が何を求めているか紐ときをしったり、寄り添い観察し利用者様が心地良く居られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・基本情報を元に家族の方の意見を聞きながらひもときシートを活用し、利用者様が何を求めているか職員で話し合い、ご希望に近づけるように日々、耳を傾け寄り添いながらケアをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居時、本人、ご家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築き必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の性格、生活歴を踏まえ共に分かち合えて共同出来るよう支援している。 ・本人が幸せで心地よいと思える関係作りを築いている。 ・安心して和やかな生活ができるよう声掛けをしている。 ・職員が利用者の立場に立って自分だったらどうだろうと考えて接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人と家族の絆を深める様、月1回のかぐらばしだより、一言コメントを発行している。 ・随時電話連絡等で要望などを聞いて本人と家族の潤滑油になるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思い出話、要望を聞いたりして職員と共同して楽しめる関係性を作っている。	現在、新型コロナ禍で面会は自粛傾向にあり馴染みの知人・友人の来訪等はないが、通常も高齢化に伴い来訪される方が減ってきている。通常であれば、親戚などの来訪があり、また、在宅時のケアマネージャーも来訪し、利用者と歓談できるように支援している。同じく通常であれば、家族と馴染みの店に外食や美容のため出掛ける方もいる。年末に家族が来訪し、ホームで食事を共にすることもある。	

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者様一人一人の生活を踏まえて寂しい思いをさせない様、職員が間に入って作品作りや合唱したり体操をしてお利用者様と職員が共同で楽しめる生活を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご利用者様の暮らしが損なわれないように生活環境支援の内容で注意点など情報提供してご利用者様本人が穏やかに過ごせる様に相談協力して連携していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・常にご利用者様が居心地良く過ごせるよう一人一人コミュニケーションをとり体調確認等を取っている。 ・家族とのコミュニケーションも多く取り情報も共有している。	在宅時の様子を家族やケアマネージャーから聞き取り、お聞きした生活歴も参考にしながらホームとしても入居後、空いている時間に利用者1対1で話をし意向を汲み取るようにしている。職員はできること・好きなことに着目し利用者に声がけしており、また、介護記録に日々の様子を書き留め、申し送りで情報を共有し支援に当たっている。現在、言葉ではっきり意思表示の出来る方が多く、残存能力を活かしつつ自立支援に向けて可能なことから取り組んでいる。意思表示の難しい方には見守りの中で行動を見て推測し、二者択一の声がけを行い意向の把握に努め支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・今までの生活記録、本人との会話の中や家族の方の情報から理解を深めている。 ・家族の方の要望になるべく近づけ本人が居心地の良い環境作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の体調管理、生活リズムを把握して事故が無いよう注意を払っている。 ・引継ぎ等、本人の状態や何をしたら説明をし連携を取り利用者のケアにあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者様、ご家族の意向を聞き本人に負担がかからないケアへと反映させている。 ・日々様子等変わる時は随時カンファレンスをして利用者様主体の暮らしが出来るようにしている。	利用開始時には在宅のケアマネージャーや家族の情報をまとめアセスメントし、計画作成担当者が暫定の計画を立て、入居後、実際の職員の目を通して利用者のできること、できないことなどを確認している。職員は1名から2名の利用者の居室を担当している。月に3回行われるケアプラン会議では居室担当者が現況を纏め、全職員でモニタリングを行い、居室担当者がそれらをさらに纏め、ケアマネージャー及び全職員で話し合い、3ヶ月に1回プランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ファイルし、食事、排泄、入浴等身体状況及び暮らしの状況を記録している。 ・随時カンファレンスを開き一人一人見直し職員一同連携を図っている。 ・ご家族の要望、意見を取り入れ実践している。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人、ご家族の個々の満足度を高めるように要望等を聞き臨機応変に対応している。 ・通院や送迎等必要な支援には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域活動の一環として、傾聴ボランティアの皆様が定期的に訪れ、地元の話をお話し頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医は本人やご家族が希望する医師となっている。 ・ご家族の面会時又は希望がある場合はご家族が付き添って受診して頂く。	同じ建物に同じ法人の運営する内科・外科専門の医院が併設されているので利用者や家族の安心に繋がっている。ほとんどの利用者はホーム協力医でもあるその医院での受診対応で、基本的に面会時に家族が付き添い医師より状況を聞いている。他の専門科目については基本的に家族の同行を基本としており、歯科については往診や受診対応で希望の時間に診察していただいている。健康管理は週2日出勤のホーム看護師を中心に朝・夕の申し送りなどで情報を共有している。ホーム看護師が不在の時間については併設医院の看護師が行い、緊急時についても併設医院の医師の指示を仰ぎ対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・階下は神楽橋医院なので医師、看護師と常にご利用者様の健康管理や状態変化の情報を共有、連携しすばやい対応が出来る体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、ご利用者本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。 ・入院状況の把握に努め、ご家族又は医療機関と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化に伴う意思確認を行い事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行っている。 ・ご利用者様、ご家族の意向を踏まえ医師、看護師、職員が連携し安心して納得した最後を迎えられる様に随時意思確認しながら取り組んでいる	ホームとしての重度化に対する指針があり、利用契約時に利用者・家族に説明し意向を確認している。基本的に食事が摂れなくなった時に家族に再度意思確認をし住み替えをしていただくこともある。開設以来看取り経験はないがその状況に到った時には家族の意向を聞き、医師と連携を取って対応できるようにしている。緊急対応マニュアルに従い勉強会も行い、その状態になった時の心構えを確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・併設されている医院の医師が初期対応し、その指示に従って対応できるようにしている。 ・緊急応急処置や準備すべきことについて、マニュアルを作り勉強会を行っている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルを作成し、随時避難訓練を行っている。</li> <li>・運営推進会議で区長及び民生委員に協力体制をお願いしている。</li> <li>・消防署の協力を得て、避難訓練、経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。</li> </ul>	<p>年2回、春と秋に防災訓練を行っている。内、年1回、秋には消防署員参加の下、利用者も全員参加し避難、消火、通報の訓練を行い、避難訓練では利用者を防火区画となっている非常階段まで移動させ、合わせて防火扉、スプリンクラー、AEDの点検等も実施している。また、2ヶ月に1回はホーム独自で避難訓練を行い万が一に備えている。区との防災協定も結ばれ、緊急避難場所等も打ち合わせ、連携を取り働けるようになっている。水、食料品等の備蓄も確保されている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己決定しやすい言葉を掛けるように努め、まず本人の気持ちを大切にケアを心掛けている。</li> <li>・ご利用者様の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個性や守秘義務を徹底管理している。</li> </ul>	<p>ホームの研修計画に沿い外部・内部の研修に参加し、人格の尊重やプライバシー保護に関する研修を受けた職員がホームで伝達研修を行い周知している。また、プライバシー保護の勉強会もホーム独自に実施し支援に当たっている。職員は自分の親だったらという気持ちを常に忘れずに、明るく、丁寧に声掛けするようにしている。入浴や排せつ時の支援についても優しく声掛けし、見守りを主に必要な介助以外には手を添えることなく、家庭的で尊厳のある生活をできるように自立に向けて取り組んでいる。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に合わせて声掛けし意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、小さな事でも本人が決める場面をつくっている。</li> <li>・職員が決めたことを押し付けるのではなく、複数の選択肢を提案し利用者が自分で決めることが出来るようにしている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1人のペースを大切にそれに合わせて対応している。</li> <li>・その日の体調、様子を見ながらご本人の希望や表情を見て支援している。(外出、散歩等)</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生活習慣や季節に合わせた支援やご家族の意向を聞きながら取り組んでいる。</li> <li>・本人の馴染みの美容院を聞いて対応したり、美容師の資格を持っている職員が対応している。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者様一人一人の表情や会話の中から好みを知り、メニューに取り入れるよう心掛けている。</li> <li>・個々の力に合わせたお手伝いをさせていただいています。</li> </ul>	<p>高齢者向けの献立や食材の配達を受け、昼食・夕食は調理専門のパート職員が調理している。自力でまた常食で食事が出来る方が多いが全介助の方もおり、キザミ食、トロミ食も提供している。利用者も力量に合わせ、「洗い物」中心に参加している。盆、正月等にはお楽しみメニューとして料理をプラスし、「うなぎ」や「チラシメ」等の季節の特別メニューも楽しんでいる。3階には広いテラスがありナス等の夏野菜やニラなどをプランターで栽培している。現在、コロナ禍で外食レクリエーションは難しいが、通常であれば「ラーメン」、「回転ずし」、「ファミレス」等にも出掛けている。ホームのおやつとして季節に応じたこねつけやニラせんべいなどを手作りしている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事は個々に合わせて確認提供したり食べやすさを考え工夫している。</li> <li>・一人一人の摂取量を記録し水分不足にならない様飲みやすいものを提供している。</li> <li>・栄養バランスの良い物を提供している。(外注)</li> </ul>		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分で出来る方は声がけ見守りをし出来ない方には毎食後ケアを行い嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ご利用者の様子から敏感に察知し身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パッド類を検討し支援している ・自尊心に配慮している。	ほとんどの利用者が自立しており、全介助の方が若干名という状況である。また、布パンツとパットを使用している方が三分の一以上おり、夜間のみポータブルトイレ使用の方が数名いる。排泄、排便記録表を活用し、トイレで排泄するように心掛け、きめ細かく声掛けを行いスムーズな排泄に繋げ、また、自立を促すことで、リハビリパンツやパット等の費用削減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄を記録、チェックし水分補給便秘対策に取り組む、申し送りして排便状況確認している。 ・身体を動かす事の大切さを職員全員に意識付け、毎日午前、午後に体操を行っている。 ・水分量も記録管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴したい日、時間に合わせて入浴をしていたらいてる。また入浴を嫌がるご利用者様には時間を置いて極力安心感を持って入浴出来る様介助している。	週2回の入浴を基本としているが、現在、週3回入浴される方が多い。利用者全員が入浴時の見守りを必要としているが、背中を洗うこと以外は自ら洗える方が多い。失禁等の場合にはいつでもシャワー浴が可能となっている。コロナウィルス禍の現在は難しいが、通常時であれば、何日かに分かれ市内の足湯に職員とともに出かけ楽しんでいる。季節に応じ、「よもぎ湯」等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを整えゆっくり休息が取れるようにしている。 ・睡眠導入剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し日中の活動の妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ご利用者毎の薬の処方に職員全員が共有し、間違え防止に努め、服薬時には職員同士で声を出して名前確認をし手交で服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・得意分野で1人1人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。 ・プランターでの野菜作りに積極的に協力し楽しみごとを支援している。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一度は季節ごとレクレーションをして楽しんでいる(外食会、桜見学、紅葉見学等)</li> <li>・近くの公園へ散歩、3階テラスでのお茶会など外の空気に触れるようにしている</li> <li>・車椅子のご利用者様にも積極的に参加してもらつ支援をしている。</li> </ul>	歩行状況については自立の方、手引き歩行の方、ウォーカーや車いす使用の方などがおり、一人ひとりに合わせて支援している。外出時は車イス対応の方が多くなっている。年間の外出・行事計画が立てられているが、現況のコロナ禍での外出を自粛しており、職員は外の空気に触れさせたいと天気の良い日に3階のテラスに出て気分転換している。通常であれば、近くの緑ヶ丘公園までゆっくり時間をかけ散歩しているが現在はそれも難しく、年間計画の中の「花見」も今年度はドライブ対応で車中からの花見という形となった。通常であれば7月には「あじさい」、秋には「紅葉狩り」や地域の文化祭への作品出品に合わせ見学にも出掛けるところであるが、今後の状況を見ながら対応せざるを得なくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族と相談して美容室の支払いや地域の行事に参加しバザーなどでの買い物などお金の安心感や満足感に配慮している。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話は希望があればいつでも掛けることができる。ハガキも希望がある時は書いて頂き出せるように配慮している。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春夏秋冬が感じられる様、季節ごとの飾り物をご利用者様と一緒に作り飾りつけを行って楽しんでいる。</li> </ul>	全スタッフの顔写真が各ユニットの入り口に掲示され紹介されている。リビング兼ホールは広く、体操をしたりテレビを見たりして寛ぐ利用者が見られた。壁には利用者で作成したぬい絵、貼り絵等の作品が多く飾られている。南に面した大きな窓からは眼下に長野市街地が望め、11月のえびす講の夜の花火大会は利用者の楽しみの一つとなっている。3階屋上テラスではプランターで夏野菜を作り、また、天気の良い日にはお茶を楽しんだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事用のテーブルの他にソファを配置し仲の良い利用者同士がお話したりくつろげるように取り組んでいる。</li> <li>・テレビや音楽を聴けるようにしている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者様の馴染みの家具、思い出の写真などご家族の協力を得て居心地の良い居室環境になるよう配慮し工夫している。</li> </ul>	居室は病室をリノベーションしたもので、各居室によって床面積が違っているが、それが返って一人ひとりの利用者の暮らしぶりの違いともなっているのではないかと感じられる。各居室には大きなクローゼットが設置され、整理整頓も行き届き、十分な広さが確保されている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、テレビ等が置かれ、合わせて家族の写真、お位牌、職員より送られた写真入りお祝い色紙等が飾られている。そのような中で、自分の住み家としてホームでの生活を自由にのびのびと生活していることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者様が自立できる生活が送れるように必要な目印(トイレ、洗面など)物の配置に配慮している。</li> </ul>		